

各報道機関文教担当記者 各位

ビヨンド・コロナ社会を先導するオンラインプラットフォーム 「ビヨンド・コロナ・フォーラム」を公開 ～本学と企業の協働で学生のアイデアを事業化！～

金沢大学は、共創型オンラインプラットフォーム「ビヨンド・コロナ・フォーラム(BCF)」を立ち上げ、このポータルサイトを5月29日(金)から公開します。

BCFでは、高校生や大学生といった若い世代を対象に「Cイノベーションピッチ(動画によるビジネスアイデア提案)」や「アイデアインターハイ(動画による提言)」を実施。コロナ禍を乗り越えようとする現代社会(ビヨンド・コロナ社会)における課題解決に向けたアイデアやビジネスプランを動画で募集します。

BCFは「ビヨンド・コロナ×動画×プロデューサー」をテーマに、動画の募集から審査までの全プロセスをオンライン環境で実現します。「ビヨンド・コロナ」という新たな時代を見越して、ビジネスの戦歴を積んだプロデューサー(企業や個人)と本学の英知を結集し、ビヨンド・コロナ社会を牽引する「Cイノベーション(※1)」の創造および社会実装・事業化、さらには参加者のアントレプレナーシップ(※2)の養成による、ビヨンド・コロナ社会における新しい社会変容を先導していく人材の育成を目指します。

つきましては、事前および期間中の取材・報道をよろしくお願いたします。

ビヨンド・コロナ・フォーラム Cイノベーションピッチ & アイデアインターハイ

日程：令和2年5月29日(金)～令和3年2月12日(金)

URL：<https://beyond-corona-forum.online>

今後の予定については【別紙1】のスケジュールを参照ください。

※1 Cイノベーション：CoronaやCrisisに加え、Creative, Cool & Clean, Communication, Community-rebuildingなどさまざまな分野へのイノベーション創出を目指すこと。

※2 アントレプレナーシップ：新たなアイデアや価値を生み出す創造意欲、課題やリスクに果敢に挑戦する姿勢や能力。

【本件照会先】

融合研究域 融合科学系・教授
松島 大輔
TEL：076-264-5779

(広報担当)

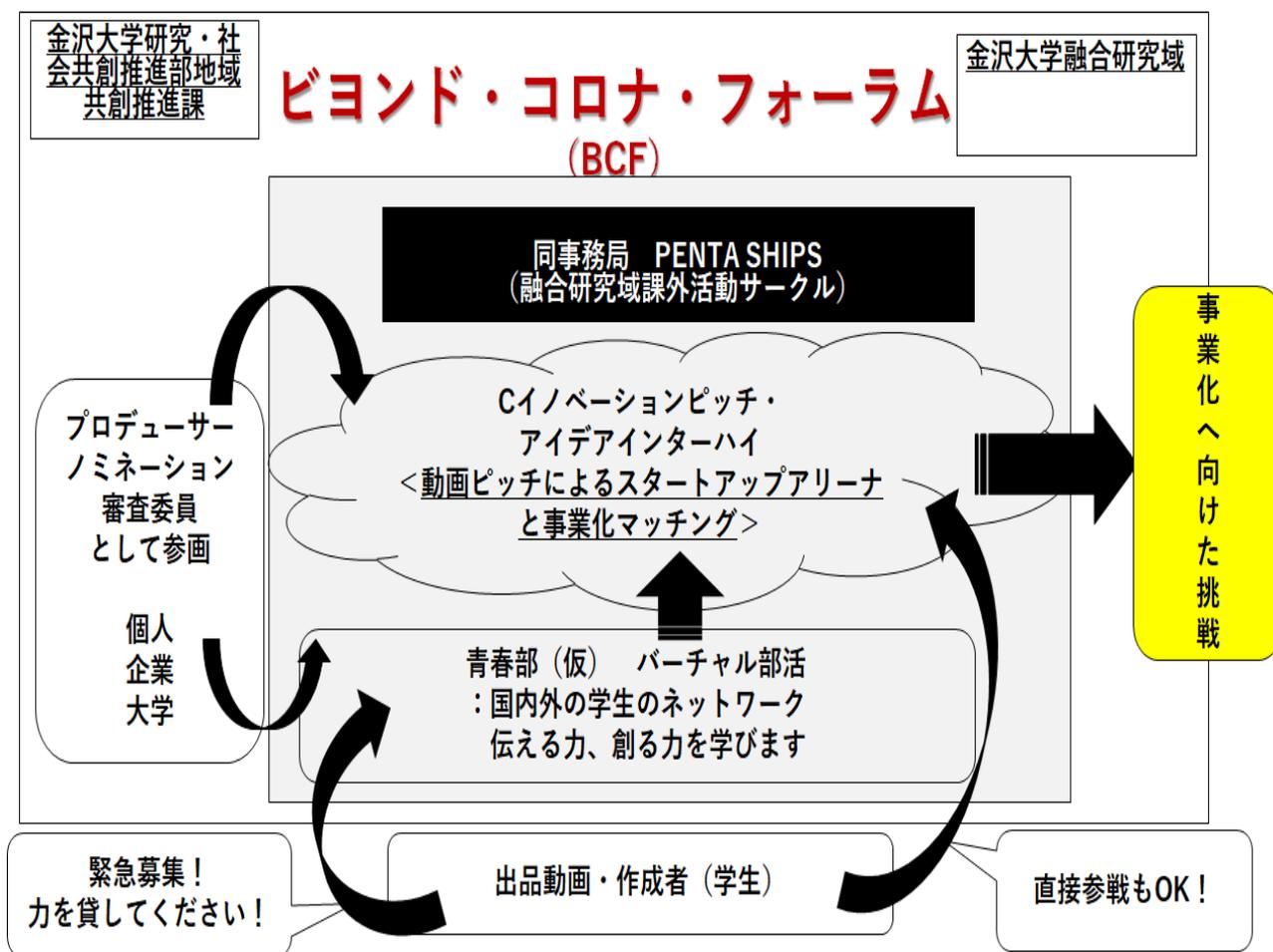
研究・社会共創推進部 地域共創推進課
山根 亜紀
TEL：076-264-5905
金沢大学総務部広報室
TEL：076-264-5024

<今後のスケジュール>

※あくまで現時点での予定です。通告なく変更する場合もございますので、スケジュールはその都度ポータルサイトでご確認ください。

- 5月29日 共創型ポータルサイト開設式，動画受付および参加者登録開始
- 8月28日 ビヨンド・コロナ・フォーラム Web イベント：
緊急提言および動画紹介
- 11月23日 動画受付終了
- 11月23日
～12月14日 動画審査
- 12月14日 動画審査結果発表 Web イベント
- 12月14日
～翌年1月31日 動画投票
- 翌年2月12日 成績発表 Web イベント

<ビヨンド・コロナ・フォーラムの概要図>



ビヨンド・コロナ・フォーラム
（「Cイノベーションピッチ」・「アイデアインターハイ」）開催趣旨

現下の新型コロナ・ウィルス感染拡大・パンデミックの惨禍のなかで、過去の13世紀の欧州黒死病や近くは20世紀初頭のスペイン風邪流行の影響同様、人類は働き方や教育、生活インフラなど各方面において斉一的なパラダイムシフトに直面している。それは必然的にコロナ禍以前の社会への旧態復帰ではなく、これまで人類が経験したことの無い社会の形成を余儀なくされている。このコロナ禍の現状においてアカデミアは地域の経済社会及びグローバルなコミュニティとの連携を進めるべきではないか。

金沢大学では2020年度から新たな学域である融合研究域を立ち上げ、まさに、このビヨンド・コロナ時代の抜本的な社会変容を生き抜き、さらにはこの社会を変えるアントレプレナーの育成を目指している。アントレプレナーとは、語の厳密な意味で、単なる起業家ではなく、社会を変える変革者の謂いである。嘗てJ.F.ケネディは、「危機」とは「危」、すなわち“danger”であるとともに、「機」、すなわち“opportunity”を意味すると指摘した。人類の直面する未曾有のピンチ、国難とも形容される現下の諸課題の超克という「ビヨンド・コロナ」にこそ、未来を照らし、次代への「投資」を進め、世界を先導する知の拠点である学都金沢の貢献がいまこそ求められる。

このような観点から、金沢大学融合研究域は、2020年5月29日を目途にポータルサイトを立ち上げ、北陸の地域社会とも連携し、広くビヨンド・コロナ時代の課題を「発見」し、この課題解決に向けて日本全国、場合によっては世界中の学生（高校生、大学生）から、①課題発見と解決に向けたアイデア、②課題解決に向けたビジネスプランの提案を募り、これらのアイデアを機縁として、本学の知の集積と産業界の実践知の新結合を通じて、社会実装を目指す。

また現下のコロナ禍が進行形ですすむなか、“social distancing”が叫ばれ、リモートワークや遠隔学習等によって展開することが予想される「新しい生活様式」や“new normal”を率先的に先導するため、本フォーラムをWebフォーラムとし、すべての準備及び実行プロセスについて、SNSやITを活用してオンラインのみで実施することを宣言する。「全プロセス・オンライン宣言」である。

さらに、本プロジェクトの事務局については、融合研究域の公認サークルである“Penta Ships”の学生が企画立案から実行について担うこととする。主役は新しい社会を拓く若い世代の学生である。そして、このプロセスの総体こそが活きたアクティブラーニングとなることを目指している。

そもそも金沢大学の濫觴は、奇しくも1862年（文久二年）に加賀藩が金沢市彦三に種痘所を設置したことに源流がある。感染症との闘いから、新たな社会課題の解決に向け、産学の共創環境を創り出し、新型コロナ・ウィルスが猖獗を極め、抜本的な社会変容が不可避の現状で、若い世代が新しい世界を拓く道筋を支援するプロジェクトである。